

人と地域から・自己発見の機会

徳井輝雄

1. はじめに

本校での6年間の生活を始める中学1年生に対して、学習の目標を持たせることは、今後の学校生活を充実したものにするために大切なことの一つである。

そこで、4月から始まった総合人間科の時間では、「出会いから学ぼう」というテーマを生徒に示し、世の中の様々な人・物・出来事等に積極的に出会い、見聞を広め、クラスメイトと議論する機会を少しでも作ることにした。この機会が、自己発見のきっかけとなり、今後の学校生活での目標をつかむ助けとなれば良いと、中1担任岡4人は願っている。

2. 準備としての実態調査

的を見て矢を放つ為に、中学1年生を対象にアンケート調査を実施した。

①読書は嫌いではなく、②一人であるより友達と一緒にいるほうが好きであり、③グループ活動に抵抗感はなく、④環境問題に関心を持っていることがわかった。

3. いままでの指導と今後の予定

1学期の大部分は、4人の担任が分担して、それぞれの関心事を提示した。

夏休みには、宿題として自由研究を課した。

2学期には、自由研究の発表会をした。それをもとに8つのテーマを決め、グループに別れて、名古屋近郊での○野外学習の準備をし、実行する予定。

3学期は、野外学習のまとめと1年間のまとめを研究集録にする予定である。

4. 生徒の反応（7月現在）

関心事を持つに至った事柄・人物は

医者・学者	30人
小説家や漫画家	33
病院の看護婦さん	16
獣医等動物関係者	16人
世界平和や地球環境を守る仕事をしている人	19

5. 課題

評価方法の確立。限られた条件下での個人の興味関心を生かした指導のあり方。